

日常生活における乾燥感に関する研究

研究目的

住宅の高断熱・高气密化と常時換気により、冬季間でも暖かでクリーンな室内環境を実現しつつある一方で、近年は室内の乾燥感に悩まされる居住者が大幅に増大しています。乾燥感は、鼻や喉、皮膚の乾きといった不快適要素にとどまらず、健康面においても風邪にかかりやすくなる、アトピー性皮膚炎などのアレルギー症状が悪化するといったことにもつながっており、道民の健康を損なう深刻な問題と捉えられます。

健康で快適な住環境を形成するために、室内環境と居住者の乾燥感の実態及び乾燥感の健康への影響を把握し、また居住者の乾燥感とそれを生み出す室内環境条件の関係を明らかにします。

研究概要

これまで調査がなされていない室内環境と乾燥感、健康被害についての実態を把握するため、実際の住宅において温湿度などの室内環境測定とアンケート調査を行い、さらに実験室での被験者実験によって、室内環境条件（温湿度、気流等）、生活状態（安静時、就寝時等）、居住者属性（健常者や高齢者等）の違いによる乾燥感への影響に関する基礎的データを得ます。

平成20年度は実際の住戸における、室内の温湿度、暖房、換気方式、使用建材等の調査、測定と居住者の生活時の乾燥に関する感覚、乾燥による健康被害の有無に関する調査を実施しました。

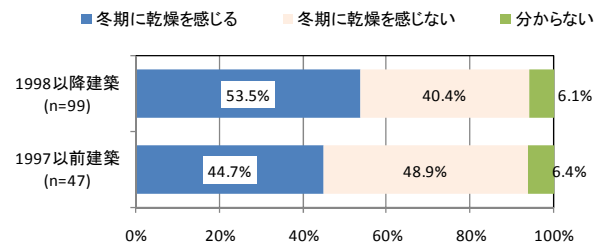


図1 冬季の乾燥感の有無

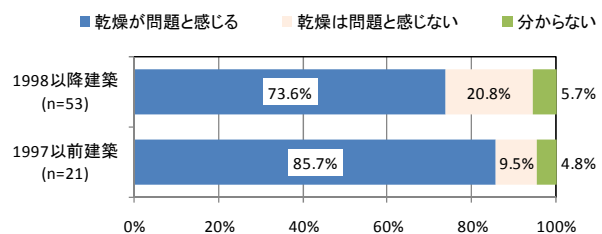


図2 乾燥感のとらえ方

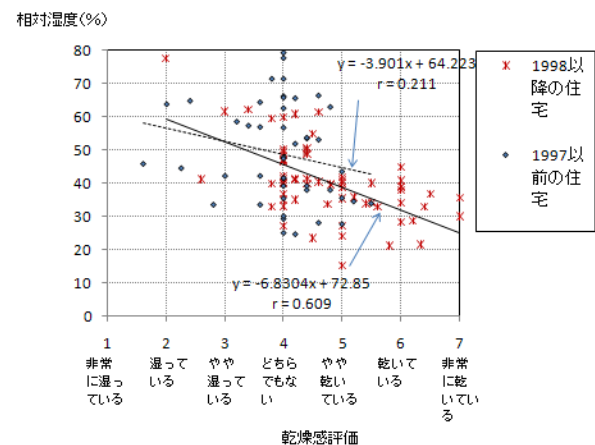


図3 寝室の相対湿度と乾燥感評価

研究の成果

本年度行った調査では、近年建設された住宅に住む居住者ほど乾燥感を感じている割合が多く約6割が感じています。さらに乾燥を問題と感じている割合も4割に達することが分かりました。住宅内の環境との関係では、新しい住宅の方が相対湿度は低い傾向にありますが、乾燥感にはかなりのばらつきがあり、低湿度が乾燥感とどのような関係があるのかは今後の検討が必要です。

今後さらに乾燥感を引き起こす要因の検討を進め、快適な室内環境形成のための手法の検討に役立てていきます。

北方建築総合研究所（担当科）
居住科学部人間科学科